

普及活動情勢報告（令和元年9月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

害虫防除、収穫作業の省力化を目指して ～インゲン勉強会の開催～



勉強会の様子

9月4日にJA土佐くろしおインゲン部会の勉強会を行い、生産者8人が参加しました。

農業技術センター発生予察担当と農業改良普及課から、防虫ネットと天敵、農薬を利用した防除体系について説明しました。

また、農業改良普及課からは、収穫作業の一部で省力化となる1条植えの特徴についても説明しました。

生産者からは、「天敵の費用を抑える方法は？」、「天敵の放飼時期を早くすると定着はどうか？」などの質問があり、自身の栽培への活用の意向がうかがわれました。

農業改良普及課では、今後も害虫防除や1条植えなどについて情報提供し、インゲン栽培の省力化を支援していきます。

津野山地域のこれからを考えよう ～津野山地域営農連絡協議会幹事会～



幹事会の様子

8月19日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターにおいて津野山地域営農連絡協議会幹事会を開催しました。

令和2年度は、町が策定する「まち・ひと・しごと創世総合戦略」や県の産業振興計画など各種中期計画の1年目にあたることから、「津野山地域の4～5年後を見据え、連携して計画作りをしよう」というテーマで、関係機関が集まって協議しました。

その結果、梶原町、津野町が立てる総合戦略に則り、県、JAが農業にかかる具体的な目標を掲げて取り組んでいこうと、全体の意識をまとめることができました。農業改良普及課は、関係機関で足並みを揃えて各種中期計画策定に向けて取り組んでいきます。

農薬について学びました！ ～須崎地区はちきん農業大学開催～



講座の様子

9月17日に須崎総合庁舎で須崎地区はちきん農業大学を開催し、女性農業者2人の参加がありました。講座では、農業改良普及課職員による「農薬の規制と安全使用」について、①農薬とは、②農薬取締法、③農薬ラベルの確認と適正使用等の講義を行いました。参加者からは、「普段農薬ラベルを見たことがないので見方がわかった」、「総使用回数のおえ方が理解できた」、「農薬事故は個人だけでなく産地全体のイメージダウンにつながるの、気をつけないといけない」などの感想が聞かれました。

農業改良普及課では、今後も女性農業者の栽培技術、経営管理能力の向上を目指し、女性農業者の学びの場として講座を開催していきます。

GAP点検から改善対策を検討 ～JA土佐くろしお集出荷場版GAP点検の実施～



GAP点検の様子

8月29日、JA土佐くろしおと農業改良普及課は、JA土佐くろしおの3集出荷場を対象に、集出荷場版GAP点検を合同で行いました。これまでのGAP点検において改善が必要とされている項目について、対応状況を確認し、より改善が進むよう検討しました。

点検の参加者は、できていないことがあればなぜできていないのかの理由を関係者から聞き取りしました。

点検後は、改善されていない項目について、責任者を決めたり、資材の置き方の改善など、具体的な対策がとられるようになりました。

農業改良普及課は、関係機関とともに集出荷場のGAP点検活動を行い農産物事故ゼロを目指し支援していきます。

6次産業化 新たな商品づくりに挑戦！ ～ショウガを使った加工品の試作～



6次産業化セミナーの様子

中土佐町大野見地区の「のらしごと舎」が、6次産業化セミナー実践コースを受講し、新たな商品づくりに取り組んでいます。

農業改良普及課では、アドバイザーからの提案を基に「のらしごと舎」が取り組むショウガやブルーベリーを使った加工品の試作等への支援を行ってきました。

9月19日に実施されたセミナーでは、ショウガを使った佃煮の試作品（2種類）についてアドバイザーから味、商品として売の場合の形状等についてアドバイスをいただき、今後の商品づくりの方向性についても整理することができました。

農業改良普及課は、今後も引き続き、商品化に向けての取り組みを支援していきます。

つの茶の販売強化に向けて ～地域アクションプラン「つの茶販売戦略」生産・加工部会～



放棄茶園の再生

8月28日、津野山営農経済センターにて茶生産組合やJA、町などの担当者の参加により、事業の進捗や活動計画について協議しました。

まず、農業改良普及課からは、権利関係や管理状況を共有できるようにするため、茶園の位置情報を明確にし、マップ化を進めていることを報告しました。

今後、マップ情報を元に茶園の集約化や管理方法を検討するとともに、生産者に経営意向をアンケート調査し、マップ化と併せて産地の維持、担い手の確保に向けて取り組むこととなりました。

農業改良普及課は、今後も「つの茶販売戦略」を支援していきます。